

# 自己評価票

## 【自己評価の意義・目的】

- 自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。
- サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や第三者評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による利用者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。
- この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

記入年月日	平成 19 年 6 月 5 日									
法人名	有限会社 清寿会									
代表者(理事長)名	藤林 清									
介護保険事業所番号	2	7	7	1	1	0	1	1	8	1
サービスの種類	・ 認知症対応型共同生活介護 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所									
	・ 介護予防認知症対応型共同生活介護 ・ 介護予防小規模多機能型居宅介護事業所									
事業所名称	グループホーム 正寿苑									
事業所所在地	大阪府岸和田市稲葉町2552-2									
記入担当者職・氏名	(職) 管理者		(氏名) 藤林 キヨ子							
連絡先電話番号	072-489-2350									

## 自己評価項目構成

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### V. サービスの成果に関する項目

## 【自己評価の実施方法】

- 運営者(法人代表者等)の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
- 「評価項目」ごとに評価をしてください。
- その判断した理由や根拠のポイントを記入してください。
- 少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。
- 優れている点や改善すべき点などの特記事項についても、別途、記録しておいてください。
- 改善すべき事項については、改善のための計画(任意様式)を作成してください。
- 利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、利用申込者又はその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。
- 評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	自治会の集会や行事に参加し又認知症の理解を深めて頂ける様な一般向けの講習会を開催してみたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	認知症対応型グループホームを理解して頂く為の広報活動をし地域の人が利用するサービスの選択肢の一つとして挙げて頂ける様、まずはそこから始めたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		○	良いとされる事、悪いとされる事の基準として見る事はあるが、評価の意義を理解する事を意識しサービスの向上や改善に取り組んだ事はありません。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	普段の生活の一部と一緒に体験して頂くなどして意見や要望を拝聴しやすい状況を作り、活かせる様心掛けている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員の方（3名）が毎月訪問して頂いたり、連絡協議会に参加し情報の交換をしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要とみられる方の入苑を通じその機会に制度について学ぶ事が出来、又関係者との話し合いの中で支援の方法について職員が提案し実践する事ができた。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段からどういう状況が虐待や拘束につながるのか話合う機会をもつようにしている。行動障害がある方については、原因の追究に努め解消や気持ちに添う様、努力している。管理者も普段から利用者に関わる事で生活状況・実態を把握し助言している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず重要事項説明書を契約時に双方で確認し質問を受ける機会を持つ。通院や服薬に関しては十分な説明をしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情等をミーティングや介護相談員の方にお知らせし今後の対処法について話し合う機会を設けている。	
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「正寿苑だより」を発送しその際個々の状況「日常生活」「受診」「服薬」「食事」と細かく連絡し金銭は明細と領収書を月末に締めて報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情の内容を分析し介護相談員の方意見等を参考にし改善に努める。	
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から職員の意見を聞ける様に管理者は心掛け、何か思う事があれば遠慮なく申し出るようにと伝えてある。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応が出来るようにシフトにはゆとりを持っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	無意味な異動はしない様になっている。離職する場合には他の職員の負担を最小限に抑えるように配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症専門士の先生の講義を精神科の病院の院内研修に参加させて頂いたり社協の主催する研修に積極的に参加するようにしている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		○	地域の事業者連絡会に参加しているがこれまで勉強会等の会合が開かれておらず、交流する機会は少ない。同様の施設に訪問し意見の交換をしたりする程度。今後、職員の交流を通じ他の施設の良い点を取り入れていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会を開いたり、できるだけ休みの希望をシフトに組み込みめるよう配慮している。急な職員の欠勤も他の職員に負担のないよう他の人員で確保している。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格を取得する為の勉強会や研修に参加出来るよう配慮し普段忘れがちな事を繰り返し履修したりしている。対応に迷いがある時は全員で話し合う機会を設けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	出生時からの生活歴を必ず伺い、困っている内容について職員が共通の理解をした上で対応出来るよう心掛けている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入苑前に家庭に訪問したり、じっくり話を聞く機会持ち、苑へ来苑していただき今後の生活の事を共に考え希望、意向を伺う。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に他のサービスの利用する方が望ましいと判断した時は紹介したり、先方の担当者に連絡したりする等し、色々な選択肢がある事を説明して安心していただける様配慮している。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いつでも帰る事が出来ると本人に伝え、気持ちを尊重する。これまで大切にしていた物を持ってきていただいたり本人の習慣が継続出来る様配慮している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の自慢できる事やこれまでの仕事等の話を聞き、その事に関連した事等について教えて頂いたり、一緒に作業している。(畑仕事・家事・茶道・華道・書道等)	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	帰宅を強く希望されたりする時はご自宅に帰って頂く機会をお願いしたり、お墓参りやご先祖の事など家族でないとできない事を本人の気持ちが落ち着く様に協力して頂いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が本人の事をとても大事に思っている事や本人の為にしてくれた事を洩らさず、本人に伝え、いつも気にかけていてくれる事を解って頂く様話している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入苑まで親しくされていた方が来苑されて、一緒に過ごされたり電話で話されたりしている。	○	入苑まで暮らしてきた地域にお連れしたり仲良くされていたお友達やご近所の方々に再会出来る様な事に取り組んでみたい。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互い仲良く暮らしていける様共通の話を提供したり、「寂しい・・・」と口に出されたりする方に「私たちがいつも側にいます」と安心して頂ける様に努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族の方と連絡をとって、生活における相談を互いにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアの重視の為、入苑前の生活歴の情報を苑内でも活かしつつ生活リズムを正常に近づける支援を行っている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入苑前に生活されていた自宅又は病院へ伺い身近な方からの情報収集に努めている。	○ センター方式（基本情報・暮らしの情報）に記入している途中である。（共有の情報とするため）
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のバイタルチェックにより個人の状態を把握し、体調、心身の変化、異常に早く気付く事に努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	認知症の為、意思を伝えるのが困難になっている方が多く、日々の暮らしの中で生活や関わりを通して本人の思いや望みを見出したり、家族の面会時や電話など利用して代弁して頂き、個別ケアを大事にしなが希望が叶えられるプランとなるよう努めている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにカンファレンス会議を開いたり、入院や疾病の増悪で状態変化がおこってきた時は主治医や入院のケースワーカーより情報提供を頂き、家族のご意向を拝聴したり、職員と今後のケアについて話し合いその方にとって一番穏やかに苑生活を送って頂くようプランを見極めたい。	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式の焦点情報（24時間生活シート）で本人の気分や何が影響を与えているかを把握し、図式化した情報を職員全員の共通した理解とし、チームケアに取り組んでより良いプランとなるよう検討している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体験で泊まって頂いたり、本人の要望で家に強く帰りたいと希望がある場合、家族の意思を尊重しながら負担にならないよう職員同行でお連れしている。一緒に行ってくれる家族がいない方などはお墓参りに同行したり、できる限り要望に添う様支援している。		
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護相談員の方に毎月一度訪問して頂いたり、行方不明の捜索や消防訓練等、地域の警察や消防に指導して頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	他のサービスを利用する為の費用が負担になるのでその点を考慮し今後どんなサービスが利用出来るか検討してみたい。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	家族や本人に難しい点がある方について地域包括支援センターと協力し合って取り組んでる。最近、包括支援センターから入苑されるケースがあり、今後もその方を通じて連絡取りながら支援していく事となっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている		○	体調が悪くなって入院したケースがほとんどで住 み替えのケースはない。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	利用者一人々への言葉かけは、理念にも掲げている 様に「御利用者のの人格を尊重し、敬愛をもっ て接し、希望とゆとりのある生活を目標とす」と スタッフ全員が心掛けています。個人情報文書は 持って開示の許可を受けています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	自分で選択する事ができる場面を多く作り、自己 決定できる力をつけていく様、支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	個々のペースがちがうので、一日の流れはあるが 本人のペースで正しい生活リズムが作れるように 支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	かかりつけの美容院に出かけて店員の方と話しな がら髪型を決定している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	自由な時間という事になれば人間的な事やシフトの問題があり安全な入浴が困難である。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	季節行事、外食を兼ね、外出する機会をできるだけつくる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方に関しては無理に預かることはせず、ご自身で管理して頂いている。家族と相談し了解も得ている。又外出時の買い物でご自身が支払いして頂くよう支援している。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望により個別外出や外食（誕生日等）をおこない希望に添えるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度のペースで外食され天候の良い日は外出、買い物などに出掛けたりされる。家族の方が迎えに来られ、自由に外出もされている。（旅行や銭湯、お墓参り）		
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方の希望があれば、家族へ電話をかけて頂いている。家族や友人より電話がかかってくる事もあり、出て頂き、近況のお話をなさっている。	○	手紙やはがきが届くこともあるが、本人の希望がなければ、返事をだしていないので、こちらの近況をお知らせする返事がだせるよう支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来苑時は、リビングや居室にて、ゆっくり過ごして頂く様にしている。持参されたお菓子などは一緒に自室で食べていただけるようにしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の方の行動を見守り、危険を未然に防ぐ様、心掛けている。次に起こりえる事を常に予測し行動するようミーティング等で話しあっている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は掛けず、ドアや窓は開放的に開けている。自由に出入りできる環境を心掛けている。又、利用者が外へでたいと気づいたり、要望があれば常に開けるようにしている。	○	職員の目が届きにくい時や利用者の不穏時は鍵をかけるようにしているがどうすれば、事故につながる事なく常に掛けなくてよいか、日頃より話し合っている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は人数確認をし、所在の確認に努めている。(人員チェック表の活用) 夜間は個人の状態に合わせ、随時巡回し、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要なものや個人で所持するには、危険なものは本人様、家族の了解のもと事務所で預かっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	その日の個々の状態を把握し職員間で情報交換を行い、常時、見守りを心掛けている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		○	以前に消防署に講習に来ていただいたが、職員のが入れ替わったこともあり8月に緊急時の応急処置訓練を行う予定である。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		○	次回、運営推進委員会に地域の方も招き、避難訓練を今月中に行う予定。又何かあれば町内の有線放送や協力して頂けるようお願いし、了承いただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入苑時に環境の変化に伴う不安からくる混乱や転倒のリスクについてご家族に説明し家族の絆を維持し落ち着かれるよう協力して頂いたり、主治医より薬のリスクについて説明して頂き本人の望む暮らしが支援できるように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェック、表情、行動を把握し体調の変化に早く気付く努力をし又異変については、情報を交換しDr（主治医）に相談したり受診している。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての利用者の投薬については、全職員が把握しており作用、副作用についても情報交換している。変化があれば、主任、ケアマネジャー、主治医にすぐ連絡し指示を仰ぐようにしている。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物に依る改善を第一に考え、繊維のあるものなどを材料に取り入れ、調理、おやつ、飲み物を工夫し軽体操、散歩を日常的に取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔洗浄、義歯洗浄は見守りし、毎日習慣的におこなっている。汚れやすい方については本人の意思を確認した上で1回/1週間のペースで歯医者往診時に衛生士にケアをして頂き、口腔内の衛生に努めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の摂取量を把握し、配膳してバランスの良い食事を提供できるよう心掛けている。水分摂取の少ない方には、チェック表に記録して形態を変えてながら、一日の必要量に達していけるよう工夫しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルを作成し職員が随時見れる場所に保管している。又、保健所からの連絡やニュース等で知れた情報を元に流行っている疾患や菌などにはそのものにあった処置、対処、予防をおこなっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日、業者に配達してもらい調理用具、布巾、まな板、包丁は夜間に殺菌消毒を行っている。主任は随時、冷蔵庫や食品棚に賞味期限切れなどが無い確認をおこなっており、その日調理したものはその日に食べていただいている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉を作らず、気候、天候が良い日は玄関を開放し常に自由に入出りできるように心掛けている。又、皆が来苑された方に気持ちよい挨拶するように心掛けている。	○	ドアホンの横に各棟、事務所に「御用の方は・・・」と明記しているが初めて来苑された方は戸惑う方がおり、どうすればよいか思案中である。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、居室の窓より苑庭が見渡せ様々な樹木、花などを身近に感じることができる。畑にて季節の物を植え、収穫してもらい新鮮で旬のものを季節感を感じるような言葉かけをしながら食べて頂いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席には個々の席を決めず、その時々に応じ好まれる場所に座って頂くようにしている。独りになりたい時などは居室で過ごされたり、ソファでテレビを見ていただいたり、事務所で話されたりと本人の思いを尊重できるように工夫している。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	利用者の愛用された家具や使い慣れた衣類、布団 などを持ち込んで頂き、本人の安心できる空間作 りをしている。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	各居室は本人に了解を頂き、換気をしたり、玄関 のドアリビングの窓を開放的に開けている。温度 調節についてもクーラーなどの調節ではなく衣服 などで調節管理している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	段差がなくバリアフリーにしている。手すりが付 いておりよく手すりを持って歩行されており、 苑外では、歩行に介助が必要な方も苑内では、手 すりでも、安心して歩行ができている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	混乱時には、本人の訴えや不安な気持ちにをよく 聞き、気持ちを受け止め、個々に合わせた対応に 努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	裏庭には、自由に出入りされ、日光浴やバーベ キューをしたり、天候がよければ、昼食を摂る事 もある。又、畑があるので、畑仕事や草むしりな ど活躍できる場もある。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然の中に建物があり野鳥の鳴き声（うぐいすやきじ）が聞こえ、苑庭には、畑があり季節の野菜を植え、収穫して新鮮な旬な野菜を食べることで季節感を感じて頂けている。毎日、庭に出てお茶を飲んだり、食事を摂ったりしてゆったりと過ごされている。  
地域で暮らしていた利用者の思い希望や自己決定を叶えるよう、なじみの場所へ外食や外出を積極的に取り入れている。